

宮城で看護職に就きたい人はチェック!

就業希望者と就職先のマッチングや復職支援など、宮城県看護協会では様々な取組を行っています。詳しくはHPをチェック。



宮城県看護協会



eナースセンター



とどけるん



宮城県ナースセンターではナースバンク事業を展開。看護師の資格を持ち、復職したい方の無料相談支援などを手がけています。ナースセンターの職員は全員看護師資格を持ち、自らの経験を活かして様々な相談に対応。ヒアリングを行い、様々な病院や福祉施設など、その人が元気に働けるフィールドとのマッチングを無料で行います。「eナースセンター」に登録すれば、1年間は求人情報が直接届き、求人票も見

ることが出来ます。求人票には載っていない詳細事項も、相談員が病院などに確認をとり、希望と合えば面接までサポートしてくれます。「eナースセンター」には看護師免許がなくても登録できることで、学生の方が就職活動に使うことも可能です。また、看護職の資格を持っている方が職場を離れた際には、「とどけるん」への登録を忘れないでください。

看護職で働くために役立つキホンと相談窓口をご紹介します

看護師は医療にかかわることはもちろん、患者や家族を支えるやりがいのある仕事といえます。まずは宮城県の看護師事情のキホンをチェックしましょう。

宮城県と全国の看護職員数比較(保健師・助産師・看護師・准看護師)

宮城県の看護職員数:人口10万対就業看護職員数(人)

	宮城県		全国
保健師	51.1	>	48.3
助産師	33.8	>	30.5
看護師	934.4	<	1049.8
准看護師	203.6	>	203.5

出典:令和4年衛生行政報告例(厚生労働省)

看護師数は全国平均を下回っています

令和4年度の全国平均との比較から、宮城県では看護職員(保健師・助産師・看護師・准看護師)のうち、看護師の人数が不足していることがわかります。病院はもちろん、クリニックや訪問看護ステーションなどでも働き手が求められています。



宮城の看護職

少子高齢化が進行する日本全体はもちろん、宮城県においても看護師の不足は大きな課題の一つとなっています。仙台市内は比較的充足していますが、仙台圏以外では不足している傾向にあり、ここ数年の調査でも、宮城県内の看護師確保率は全国平均の約7割という低い数値となっています。

看護師不足の要因の一つとして、近年は看護・介護休暇、出産・育児休暇取得率の上昇、福利厚生充実といった働き方改革が進み、すでに看護師として働いている人の働きやすさが改善する一方で、その分、より多くの人員が必要となっていることが挙げられます。

看護師が働く環境は、昔に比べれば大きく改善されていることは間違いありません。「自分の生活を

施設ごとに異なる看護師の役割(一例)

- 急性期病棟**
命にかかわるなど、状態が安定しない患者さんのケアを集中的に行う。
- 療養病棟**
バイタルサインの測定や点滴、採血、注射など回復期にいる患者さんをケア。
- 有床診療所**
バイタルチェックのほか、内服薬の管理など、入院患者さんのケアを行う。
- 無床診療所**
赤ちゃんの診察時の姿勢保持など、医師が行う外来患者診療の補助を主に行う。
- 訪問看護ステーション**
療養中の人がある自宅などに赴き、バイタルチェック、健康管理、看護ケアなどを行う。
- 老人福祉施設**
施設利用者の看護ケアを一手に行う。一定の経験とスキルが必要とされる。

より大切にしたい」などの理由で夜勤を好まなかったり、「ブランクがあるが再び看護師として働きたい」といった看護師たちの意識の変化もあり、「勤務時間を半日単位にする」「採用時の年齢制限を広げる」などの対応策をとっている病院やクリニックも増えています。また、看護師を取り巻く環境の変化も見逃せません。高齢化社会の進捗とともに、看護師の力を必要とする人は増えていますが、一般的な入院の期間は短くなる傾向があります。退院までの期間が比較的短くなることで、その後自宅療養する人が増加しており、その結果、訪問看護ステーションや介護福祉施設など、病院以外で看護師が活躍できる場所も多岐にわたるようになりました。病院で経験を積みながら自分が見たい看護を見つけ、その後訪問看護系の施設に転職するといったキャリアを選択する人も少なくありません。

Column

ナースセンターの佐藤さんに聞きました

未来の担い手に向けた活動と看護職のやりがいとは?

患者さんとの出会いは一期一会。

喜びも悲しみも

すべてが糧になる。



公益社団法人宮城県看護協会
宮城県看護師等無料職業紹介所
宮城県ナースセンター
ナースセンター事業部長 佐藤 千賀さん

近年は少子化を背景に看護師の平均年齢も高くなり、より若い方々を求めています。ナースバンク事業と並び、私たちが開催している「ふれあい看護体験」は、将来看護職を選択していただくために、看護学校入学前の中・高校生を対象に開催している大切な活動の一つです。毎年500名ほどが参加し、手術器具に触れたり、指導者がついての看護ケア体験や赤ちゃん沐浴の補助体験などを行っています。また、中・高校生が対象の「看護の出前授業」では、現役看護師が講師を務め、看護のやりがい、仕事内容などを伝えていきます。さらに、毎年5月12日の看護の日には、アエルなどで看護の日イベントを開催。看護の大切さを根付かせる取組も行っています。

私も長い間、看護師を務めてきましたが、「この人ががんばれるためにどうすればいいか」「穏やかに過ごすためには何をすればいいか」を考え患者さんに接してきました。現場を離れた今でも、病気のあつた方ががんばっている姿を見ると心から応援したくなります。仕事をすれば、喜びだけでなく憤りや悲しみに暮れることもあると思いますが、そのすべてを糧にできるのが看護師という仕事です。患者さんとの出会いは一期一会。看護師は患者さんがよりよく生きていくための支援者であり、同時に大きなやりがいのある仕事だと思います。